

白倉川の結晶片岩

老川 寿太郎*

I 溪流の様相

三波川帯の結晶片岩類を天竜川に供給する支流に、南から阿多古川、かなきの川、白倉川がある。白倉川は中央構造線に近い所を源とし、秋葉ダム下で天竜川に流入する。その溪流には、ムカデゴケ、フタマタゼニゴケ、オオムカデゴケ、ミドリミズゼニゴケ、トサゼニゴケ、ツノゴケ、オオゼニゴケ、ジャゴケ、クモノスゴケ、ヒメジヤゴケ、ゼニゴケ、シロヒジキゴケ、カヤゴケ、シノブゴケ、イタチノシッポ、ハイゴケ、カガミゴケ、ヤマスギゴケ、ハウオウゴケ、ヒムロゴケ、チヂレゴケ、ミノゴケ、キヌゴケ、ヒラゴケ、オオトラノオゴケ、コスギゴケ、トサカハウオウゴケ、フジノマンネンズギ、コウヤマノマンネンズギ、トラノオゴケ、クジャクゴケ、ナミガタタチゴケ、コハイヒモゴケ、ヨツバゴケ、オオカサゴケ、コツボチョウチンゴケ、タマゴケ、ヒノキゴケ、キンシゴケ、チョウチンゴケ、シッポゴケ、ギボウシゴケ、ナガミシッポゴケ、イワマエビゴケ、ヒナノハイゴケ、チヂレバニワズギゴケ、ヒョウタンゴケ、ギンゴケ、コバノチョウチンゴケ、ミズゴケ、アツバチョウチンゴケ、オオシラガゴケ、スナゴケ、ムラサキヤネゴケ、カモジゴケ、ホソバオキナゴケ、などのこけ類が繁り、その数は、大変多い。また、しだ類150余種、単子葉植物100余種、双子葉植物490種余りも見られる。細葉石南花とひかげつつじの群落は非常に美しく自然に明けくれる者にとってはよいこいである。

II 白倉川の地層と岩石

地質調査所の秋葉山地質図、三河大野地質図による阿多古帯上部層で採集することのできる岩石は、凝灰質の緑色片岩と珪質の黒色片岩、カンラン岩が主なものである。阿多古帯の中部層の主なものは、強度変成の緑色点紋片岩、黒色点紋片岩と凝灰質緑色片岩、珪質黒色片岩、石灰片岩、チャート、紅れん片岩である。下部層では絹雲母片岩がめだち、珪質黒色片岩、凝灰質緑色片岩がみられる。竜山帯に入って西から砂状片岩、片状砂岩、黒色片岩が採集される。黒色片岩は黄鉄鉱の点在しているものがある。天竜川に流出するにあたりには緑色片岩、緑れん片岩、アクチノセン石片岩の大きな露出がある。この緑色片岩類にも黄鉄鉱の結晶が点在している。西川ではバラ輝石もみられる。

III 結 び

白倉川は全長約12kmであるが、阿多古帯の上部層、中部層、下部層と竜山帯の砂質片岩のある部分および変輝緑岩帯の5つの地層を横断している。講演では、これらの岩石につき述べる。

* 天竜養護学校